

稼げる農業を築く

# シャインマスカット



一般に、主食用米と比べて面積当たりの収益性が高い作物が高収益作物と呼ばれています。シャインマスカットも、その1つです。

シャインマスカットは、粒が大きく、種が無く皮ごと食べられる大粒のぶどうです。市場では人気が高く、高値で取引されています。高級なものは一房10,000円も珍しくありません。

町内でも作付けする農業者が増え始めています。今年は全体的に成長がよく、粒が大きいものが数多く収穫される見通しです。

西北地域では水稻栽培の育苗ハウスを活用した栽培に注目が集まっています。「アーチ栽培」と呼ばれる栽培方法によって、育苗との両立が可能となっています。また、シャインマスカットは6月頃から10月頃に栽培管理や収穫を行うために、稲作の作業が空いた期間に栽培可能です。作業が競合しないことから、稲作とシャインマスカットの複合経営に注目が集まっています。

◀ぶどうの木はハウスの下部を占領しないため、育苗以外にもほかの作物の栽培も可能





## 次世代へのバトン ～町の農業の将来のために～

町内でシャインマスカット栽培に取り組む工藤勇一さんは、栽培を始めてから今年で5年目を迎えています。実の成長が、目でわかるようになった時に喜びを感じるそうです。

しかし、はじめの2年ほどは思ったように実らず、「挑戦」と位置付けてはじめてために、栽培の知識が不足していたと言います。先に近隣地域で栽培を始めていた人などを頼り、シャインマスカットへの理解を深めていきました。継続した取り組みの結果、大きな実が育つようになったそうです。

工藤さんは、「次の世代を担うであろう若者に、しっかり稼げる農業を見せたい」と胸中を語ります。



▲栄養が実にしっかり行きわたるように、「わき芽」など適宜取り除いているという

農業者の高齢化と後継者不足といった問題から、若い人に胸を張って町の農業を託すためです。そのための一環として、シャインマスカットの挑戦がありました。工藤さんは「数年後を見据えた試験栽培により多くの人が積極的に取り組んでほしい」と呼びかけます。

町では、育苗ハウスを活用したシャインマスカットの栽培をはじめとする高収益作物栽培を推進しています。栽培が本格化すると新たな特産物やふるさと納税の返礼品として提供できるようになり、農業者の経営安定化につながっていきま

す。  
まずは、新たな作物を検討してみませんか。



▲木の根の様子。木の囲いに土を入れ、水分量を図りながら栽培。水やりは、多くて1日に6回ほど